マのもと、5名の参加者、

加藤せ

都会と田舎の協働大作戦」のテー

がする」とか、里山ウェーブをきっ 木だったが、なんとかいけそうな気 らないといけないと思い始めた」と 域の人から「地域づくりに本気にな えてきました。 かけに住民の方々の力強い声が聴こ か「人口減などで不の部分が多い油 3日目のワークショップでは地

アが生まれました。 がりが出来、またユニークなアイデ たように思います。 たくさんのつな の心にある灯りを再び灯して下さっ 今回の事業を一過性のイベントに 東京の参加者の皆さんが地域の人

≫未来図が

出来上がってきましたる

「里山ウェーブってなんか楽 ていう声も♪♪♪

するのはもったいない。一つずつ整 来上がるか楽しみです。里 れます。どんなプランが出 業に活かしていこうと思っていま 理しながらこれからのセンターの事 おいて活動プランを作成さ たことをもとに、これから東京に 参加者の皆さんは油木で見聞き

さんの予定を積極的に体験されま

務局であるジャパン総研の方々が い子メンター、県の職員の方々、事

2泊3日の盛りだく

山ウェーブにご協力いただ いた皆さんありがとうござ

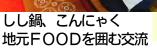
兄さんお姉さんとの交流に中学生

来」ワークショップでは、優しいお

神石高原中学校での「まちの未

の顔が輝いていました。その変化を

いました。









販売戦略なども考

語り合いました。

油木高校生の案内での散策

交流会では本音で

地域の人々との

辛うてごめんの試

食をし、 東京での

印象的でした。

た先生方の笑顔も 感じ取っておられ

を考えています んの販売戦略

いを伝えました。

ていただきたいとの思 て、共に油木を盛り立て の方々に関係人口とし

ありがとうございました。里山ウェーブ参加者へのな

の祈願の舞い

ひろしま里山ウェーブ

月23日に各テーマ

工徒を見守る伊藤さん

第23号 平成30(2018)年 11 月発行

TEL 82-0701 FAX 82-2228

に向けた神石高原中学校

博

町は、みんなにとって便利

詰まった未来の神石高原

生徒それぞれの想いが

貼って、神石高原町の未来 に沿った絵を描き、下絵に

る若者たちにどう映るの でしょうか? 東京から来 で魅力的な町になったの

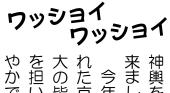
今から楽しみですね。

の関わりもなかった若者が ています。つい最近まで何 めにどうすればいいのかを 沸き上がる熱を感じ、 創りたい」と訴えていまし もわからん」と言っていた の未来を考えてもわしは何 ていく瞬間を見ました。「町 の前にいる人たちが変わっ わったぞ」と。私はその目 す。「こいつは以前と何か変 その時に感じて欲しいで 若者と会った人たちに聞い わざわざ東京から若者 した若者たちは光を創るた 人が「わしはこの町に光を 一生懸命に実践しようとし 心の底からふつふつと 貼り合わせた下絵の製作 然を活かした町」の3つ。 町」「暮らしやすい町」「自 たテーマは「活気のある の生徒が、模造紙を4枚も での活動を紹介します。 引き続き、神石高原中学校 暁です。前号の高畑さんに 域おこし協力隊の伊藤 伝ってくれました。 決まっ と全体のテーマ設定を手 上で、各班で「こんな町に 10 年後の自分を想像した した。その後、3人の有志 したい」を作ってもらいま 10月16日の授業では、



参加者と橋本さん(左端)

やかで華やかな祭り を担いでもらい、賑 大の皆さんにも神輿 来ました。 れた京都光華女子短 今年は民泊で来ら



今年もギャル (女性) 社秋季大祭において 神輿を出すことが出



光華女子短大の皆さん

ました。

神石高原町の出身者

油木亀鶴山八幡神 協力いただいたギャ かもしれません。ご うございました。 ルの皆さんありがと も少しずつ導入して 承していくととも の油木には必要なの いくことがこれから 伝統を尊重し、継 新たな取り組み

発な意見交換会となり 明しました。多くの質 からの油木協働支援セ いての話を聞かれまし 油木高校の魅力化につ 後油木高校を訪問され、 油木の町並み散策、その ンターの取り組みを説 ナマズプロジェクトや 帰りの旅」で油木へお越 が「ふるさと再発見・日 八幡神社の大祭の見学、 になりました。亀鶴山 センターでは、昨年度 意見をいただき、活

石高原町友会の皆さん 10月7日、広島市の神



の前で記念写真



続けてきた当部会ですが、

平成29年4月から協議を

支援事業専門部会

藻谷さんと記念撮影!

わくわく

農業チャレンジャ

開き、高齢化や鳥獣被害

今年度3回目の部会を

地域子育て世帯

10

月の専門部会

見をもとに、行政や保育所、

里山と夕日

テムを作っていくことな

に作ってもらうためシス くこと、農産物を意欲的 辛子の栽培を推進してい

今後は協議の中で出た意

荘厳な雰囲気でした

ていきたいと思います。

しやすい油木の町を目指し 小学校と連携を図り、子育て 会など多くのことを行いま

ト、行政との意見交換

譲渡会や子育て世帯へのア

けることになりました。制服

月3日を以て区切りをつ

学長表敬訪問

ステム学科修士課程2年生 わっていただく広島大学大 月から地域おこし協力隊と 島大学の越智学長を入江町 化プロジェクト」の関係で広 の尾森さんが表敬訪問をし て当該プロジェクトに関 赤木センター長、来年4 月15日「西川化石魅力

左から赤木センター長、 入江町長、尾森さん

越智広島大学長

見る来る住む Miraijyu

在事業計画を策定委員で作成 られるようなホームページを作 希望者が生活に関する情報を得 油木地区への移住者及び移住 運営していく予定です。

体験・交流推進事業専門部会

生された古民家(体験型農家民 できませんでした。 務局長、そして私。 校3年生の前原唯さん、 された(株)日本総研研究所調 ンセットビューイングでフル 氏泊に最初の宿泊者として宿泊 オフミーティングを行いました。 「を奏でてくれた神石高原中学 10 で体験・交流部会のキック 月19日小野南郷にある再 向かって右から当該 部会長 高原 敬二 久保事



ゆきふるさとまつりが開催さ

月21日

自治振興会より

たくさんの方にお越しい

10月8日 (月) に新坂わ

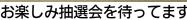
源流の里しんさかでは、

2018 ゆきふるさとまつり

200本の大根を販売中



ピンクの馬の登場!









め縄づくりを行いました。

ゆきの灯り人

10月28日 安田自治振興会

10月14日 源流の里しんさか

No.1 (不定期) 10月24日 58回「食品衛生指導員全国大会」に 源流の里しんさかの今井ゆきみさん が中四国代表として参加され、指導 員活動の発表をされました。今井さ んは昨年度広島県食品衛生大会にお いて最優秀賞を受賞されています。



を聞いて、非常に 勉強になった。大 会で得た知識を 地域に還元して いきたい」と思い を新たにされた 今井さんでした。

各地の

をふまえて、油木地区で

など農業が抱える問題点

目指していく農業につい

く話し合いました。

その中で来年度に向け

辛うてごめん用の唐

生百年まず健康!!



10月13日 油木地域

そば打ち教室 8日(土) 1 \pm

の要望書を

しめ縄づくり

⑤要望活動の実施 ミツバチ20 この活動の

期に合わせて、小野地域として 予算要望書を提出しています。 毎年12月の町の予算編成時 重要事項については町 とりまとめ、町長へ

た、この2月には「奥様ご招待 事です。福 行っています。都市との交流行 人前後の参加があります。 ま

山方面から毎回20

食事会」を実施し、大変好評を

功し、希少価値の日本ミツバチ いただきました。 の蜂蜜採取が始まっています。 フロジェクト」が生まれ、日本 の中から「ミツバチ 群ほどの捕獲に成

備として、テレビ、電話、 Wi-Fi を設備しています。 施設には情報を受発信する設 防災用備品は、宝くじ助成

ドなどが有ります。 助ロープ、簡易段ボールベッ 投光器ライフジャケット、救 事業を受けて、担架、発電機、 避難所となる小野社会教育

振興会の活動についてそのニ 会長 前原孝史

小野自治 の将来を考える会」

災害についての要望書を提出 長に直接要望活動を行ってい ます。この7月には7月豪雨 しました。

望をいかに具体化していくか そもそも政策の原点は住民要 原点としてとらえています。 にあります。 この要望活動は民主主義の

第一目標に.

して、毎月1回の定 口を増やすことを 米を考える。

云があります。小野

任意の組

織として小野の将

の定住人

⑥防災対策

を食べる会

と夏野菜力

「おいしいだ

新米を食べる会」を レーの会」、11月の 、
て
月
の
「
川
遊
び で47回を数えます。 主催行事 例会を行っています。この9月

として、4月の「おいしい山菜

災害の時は避難所を開設した 報を知らせるなどの活動をし 域防災計画を策定しており、 安全を第一に考えて行動する は役割分担して、住民の命の ことにしています。7月豪雨 大地震や風水害などの場合に 小野自主防災会では小野地 ページング放送で道路情